

読む（文学的文章）

第二学年 国語科学習指導案

一 単元名

状況の中で「故郷」―状況を捉え、人の生きる姿や社会について見つめる―

二 単元および教材について

「故郷」では、時間の経過に従って継起する様々な状況（情景・事件・人物の行動・人間関係等）に直面することによって、自分の置かれた立場を自覚し、己の生き方を見つめる姿が描かれている。特に、置かれている立場の違いによって起こる人物の言動や人間関係の変化は、主人公の生き方に変容を迫る重要な要素となっており、この社会的状況の中で生きる故郷の人々の人物像について十分に読み取りを行った上で、「状況を捉え、人の生きる姿や社会について考えを広げ深めること」に迫っていききたい。

義務教育を終え、これから社会に直接触れていく年齢になる三年生にとって、時代や社会の状況の中での、人と人との関わりについて考えをもつことは、これからの自分に関係する問題であると言える。そのことを理解した上で、社会の中で生きる人間について具体的に描かれている「故郷」を通して、状況を捉え、人の生きる姿や社会について考えを深めることができるように、言語活動を『故郷』を通して、**社会のあり方や人間の生き方について意見をもとう**とした。

実際に自分の成長に生かすために、相手意識・目的意識を『二十歳の私へ―十五歳の学びの足跡を届けよう』とし、十五歳の学びの足跡をポートフォリオに綴じていく。そして、二十歳の成人式の時に、それを読み直し、あの頃の私はそういう考え方をしていたのかと自分を見つめ直すキャリア教育の一貫として活用する。

さらに、読後感想の域を一步進め、自分の「考え」を「形成」するために、次の流れで授業を仕組んだ。

①作品『故郷』に登場する人物に着目し、観点を絞る。

②作品の読みを踏まえながら観点について考える。

③仲間の意見を踏まえた上で、自分の考えを再構築し、自分のものの見方や考え方を広げ深める。

①では、『故郷』という作品から、このテーマで書いてみたいという観点を自分で考える。自ら観点を考えることで、課題を発見し、興味関心を高め、主体的な学びにつながると考えた。観点づくりの授業は、『故郷』の読了後、次のようなステップで行う。

(1)登場人物（三人）について、一人ずつ短時間の感想を交流する。

・ヤンおばさんについてどう思うのか。

・感想の中に、その人物の生き方に対する評価が入ってもよい。

・過酷な社会状況の中の人間の生き方の難しさのレベルの内容にまで触れる。

(2)考えの形成を行うために観点を選び、自分のテーマを設定する。（自分の課題づくり）

・ヤンおばさん、レントウ、私、その他の中から、書くための中心人物を決める。（復習の人物でも可）

・登場人物を限定しなくても可（社会状況と人間等）

(3)意見文の具体的な内容（イメージ・見通しを持たせる）

・ヤンおばさんの心は、どのような状況によって変わってしまったのか。そのことに対する意見。

・レントウの「旦那様……」という呼び方は、どんな状況の中から生まれたか。そのことに対する意見。

・私のこれからの生き方。（予想、期待）

(4)意見文を書くためのタイトルを自分の言葉で決める。

(5)次時の予告

ただし、意見を述べる観点を持つことが困難な生徒もいるため、観点の見つけ方についての全体交流の場面を位置づけた。

③では、あらかじめ個人で考えたことを、仲間との交流を通して、自分のものの見方や考え方を広げたり深めたりすることができるよう対話的な活動の時間を位置づけた。

三 生徒の実態

意欲的に学習に臨む生徒が多い。また、男女の仲も良く、交流の際は分け隔てなく自分の考えを話すことができる。また、読むことの授業では、描写を根拠に登場人物の心情や表現の工夫を読み取るなど、内容を理解することはできている。しかし、内容の解釈はできても「考えの形成」に関しては弱さを感じる。考えのもとになるものが自分の体験に偏っているため、自分のものの見方を広げたり、深めたりする姿が少なく感じている。

このような生徒の実態を踏まえ、文章を読んで「人の生きる姿や社会」について考え、対話的な活動を通して、仲間の考えを自分の考えの形成に生かすことで、「深い学び」が実現すると考えた。

中学校学習指導要領解説「読むこと」（中）ア・イ・エ第三学年より

ア 文脈の中における語句の効果的な使い方など、表現上の工夫に注意して読むこと。

イ 文章の論理の展開の仕方、場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、内容の理解に役立てること。

エ 文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと。

四 岐阜県中国研 「生きてはたらく言語能力」の育成について

- 「生きてはたらく言語能力」を具体化する。↳「生きてはたらく言語能力」具体化一覧表より
- 筆者がどのような意図でその語句を用いたのか、読み取ることができる。
- 登場人物の心情の変化を読み取るために、繰り返しされる言葉、心情描写、行動描写、情景描写などに着目して読むことができる。
- 作者の人生観や生き方と関連させて作品を読み、人間、社会、自然などについて自分の意見を書きまとめたり話したりすることができる。

五 岐阜県中国研究 読むこと（文学文章）部会研究テーマとのかかわり

言語活動を通して、主体的・目的的に読む能力の育成
↳作者の表現意図に迫り、豊かに想像する力の高まりを実感できる文学的文章の指導の工夫

「言語活動を通して、主体的・目的的に読む能力の育成」というテーマ受け、「主体的・目的的に読む」ために次の三点を行う。

- ①自分で考えをまとめる観点を検討すること。
- ②「二十歳の私へー十五歳の学びの足跡」という活動の設定の工夫をすること。
- ③仲間の考えの形成を生かして、自分のものの見方や考え方を広げ深められるよう対話的活動を位置付けること。

六 単元指導計画（全九時間）

【単元のねらい】

- 場面や登場人物の設定に着目して、内容を読み深めることができる。
- 時代や社会の変化の中での、人と人との関わりについて自分の考えをもつことができる。

【単元の評価規準】

- 作者の表現意図を考えながら、登場人物の描かれ方や場面における表現について読み取っている。
- 「故郷」を読んで、人間、社会について自分の考えをもっている。
- 「故郷」の中に描かれた社会状況や人間の生き方に対し自分の考えを持ち、他の情報も参考にし、複数の視点から、人間、社会について自分の考えを再構築している。

時		1 次	2 次	3 次							
	ねらい(◎学習課題)	<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二〇〇の国ではこんなことがあるよ」といくつか提示された資料をもとに、人の生きたり社会の在り方について読んでいくことを理解し、学習に見通しをもつことができる。「故郷」が名作であることを知る。 ◎『故郷』を読んで、初発の感想をまとめ、分らない語句を調べよう。 	<p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人物の言動や情景描写に着目し、故郷に対する私の心情を読み取ることができる。 ◎現実の故郷に触れたときの私の心境をまとめよう。 	<p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人物の言動や表現技法に着目し、ルントウに対する私の心情を読み取ることができる。 ◎ルントウを思い出し、私の故郷に対する気持ちはどう変わったのだろうか。 	<p>4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言動や表現技法に着目し、人物の変化やその理由について読み取ることができる。 ◎ヤンおばさんに再会し、私の故郷に対する気持ちはどう変わったのだろうか。 	<p>5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言動や表現技法に着目し、人物の変化やその理由について読み取ることができる。 ◎ルントウと再会した私の故郷に対する気持ちはどう変わったのだろうか。 	<p>6</p> <ul style="list-style-type: none"> ・希望」や「地上の道」に着目し、私が訴えている気持ちを読み取ることができる。 ◎私はどんな気持ちで旅立っていったらう。 	<p>7</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『故郷』に描かれた社会状況や人間の生き方を根拠に、問いから具体的な観点を立て、社会や人間について考える個人テーマをもつことができる。 ◎『故郷』の作品を読んで、人間や社会についての自分のテーマを立てよう。 	<p>8</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人で立てたテーマについて、教科書や新たな資料を根拠に自分の考えをまとめることができる。 ◎自分で立てたテーマについて、本文や新たな資料を根拠に考えをまとめよう。 	<p>9</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流を通して、仲間のものの方や考え方と自分の考えを比較し、新しい考え方を知ったり、自分の考えを再構築したりすることができる。 ◎交流を通して、社会や人間についての自分の考えを確かになしよう。 	<p>評価規準・評価方法</p> <p>『故郷』の内容をおさえてようとしている。また、分らない語句を調べ、五感を磨き、語彙を豊かにしている。 (発言・ノートの記述内容)</p> <p>情景描写や言動を関連付けて、心情を読み取っている。理想の故郷と現実の故郷を対比させて心情を読み取っている。 (発言・ノートの記述内容)</p> <p>言動や表現技法に着目し、描写を関連付けながら、ルントウに対する私の心情を読み取り、故郷に対するイメージの変化をまとめている。(発言・ノートの記述内容)</p> <p>描写を関連付けることでヤンおばさんの変化を読み取り、その上で私のヤンおばさんに対する心情の理解を深め、故郷に対するイメージの変化をまとめている。 (発言・ノートの記述内容)</p> <p>言動や表現技法に着目し、描写を関連付けることで、変化を読み取り、私のルントウに対する心情の理解を深め、故郷にたいするイメージの変化をまとめている。 (発言・ノートの記述内容)</p> <p>言動や表現技法に着目し、私の旅立つときの気持ちを読み取った上で、作品の主題を理解している。 (発言・ノートの記述内容)</p> <p>自分の意見の元になる根拠を『故郷』の作品の中や新聞記事などから示し、まとめている。 (発言・ノートの記述内容)</p> <p>自分の考えを、教科書の本文や新しい資料を根拠にまとめ、自分で立てた課題を解決している。 (発言・ノートの記述内容)</p> <p>仲間のものの方や考え方を知り、自分のものの方や考え方を広げたり、深めたりすることができる。 (発言・ノートの記述内容)</p>

七 本時のねらい

「故郷」の解釈をもとにして、人の生きる姿や社会のあり方について考えたことを仲間と交流する活動を通して、自分のものの見方や考え方を広げたり、深めたりすることができている。

八 本時の展開 (9/9)

<p>導入</p>	<p>学習活動</p> <p>◆学びの足跡であるポートフォリオに今までどんなものを収集してきたのか振り返る。 ◆本時の課題</p> <p>人間や社会について考えたことを交流し、仲間のものの見方や考え方を生かして、自分のものの見方や考え方を広めたり、深めたりしよう。</p>	<p>指導・援助</p> <p>・ポートフォリオの中身を振り返り、考えの形成を行う「相手意識・目的意識」を自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら確認することで、主体的な学びにつながるようにする。</p>
<p>展開</p>	<p>◆自分のテーマと考えたことについて発表する。 【Aさん】私は、あの神祕の宝庫だったルトウがでくのぼうみたいな人間になっただけでよかったことに衝撃を受けました。私は、ルトウに、たとえ身分の差があっても子ども頃の頃のように、「私」と友人であってほしかった。金色の丸い月のように輝いていてほしかったです。しかし、なぜそのようなルトウになっただけでよかったのか考えると、重い税金に苦しめられるなど、社会が関係していることが分かりました。そこで、私は「どんな社会だったか」ルトウは、でくのぼうにならずにすんだのだろう」という個人テーマを立てました。結論から言うと社会制度によって、一人一人が安心して暮らせる社会であれば、ルトウは希望を失わず、でくのぼうのような人間になることはなかったと思うのです。税金の二重取りが行われているのも、匪賊がいても取り締まれないのも、役所や警察官がきちんと動いていない社会だからです。社会制度が整っていないため、安心して暮らせない社会でルトウは生きていました。反対に社会制度の整った国を見てみると、幸福感も高いです。幸福度が高いデンマークでは、労働時間が決められていたり、女性の就職率が世界一高かったり、教育費は大学まで無料という手厚さです。医療負担もほとんどありません。このように社会制度が整い、一人一人が守られる社会であってこそ、初めて希望をもって生きられるのだと思います。</p> <p>◆仲間の発表に關わって自分の意見を発表する。 【Bさん】確かに社会制度が整っていると安心して暮らせると思います。しかし、そんな社会を実現するには私たち一人一人の意見が反映されなくてはならないと思います。故郷の作品の最後にも「歩く人が多くなればそれが道になる」とあります。一人一人が意志をもって生きることで、社会が分かります、誰もが安心して生きられる社会制度も整うのだと思います。 【Cさん】Bさんの発表を聞いて、一人一人が意志を示すことが大事だと思いました。でも、ルトウは税金や匪賊など、いろんなものに苦しんでいて、とても希望をもって生きることもできなかつたのだと思います。そんな中でも希望をもてる人は超人です。そこで、私は、誰もが希望をもつにはどうしたらいいかについて考えました。……</p> <p>◆仲間の発表を聞いて、学んだことをグループで交流する。 【Dさん】年金のことであれだけ、大丈夫なことで不安になるのは、本当に社会が自分のことを守ってくれているのか心配になるからだよ。安心して暮らせる社会づくりが必要だと思っただけ。 【Eさん】でも、社会制度がしっかりしていれば、それで幸せなのかな？ムヒカ前大統領は、「日本人は・・・」と言っているし、野放図に走るヤンお婆さんを見ていても、足を知らない人間は満たされたいと思っただけ。 ◆グループ交流を通して、自分の考えはどのようになり、深まったのかを発表する。 【Fさん】私は、ルトウやヤンお婆さんの姿や発言の変化から、「国が豊かでない」と、人の心は荒む」と考えました。しかし、Fさんの発言を聞いて、そもそも「豊かさ」とは何だろうとさらに疑問が深まりました。私が考える豊かさとは金銭的なものから、「足るを知る」中で感じることでできる幸せへと変わりました。沖繩研修のときに、感じた幸福感は今までの幸せ、太陽の光を浴びることが「できる幸せなど、足るを知ることで当たり前のように幸せを感じることが出来ます。そして、それは「国が豊かでない」と・・・」と違って、自身で生み出せるものです。「国が豊かだからよかつた」「国が豊かでないから・・・」ではなく、いつも自分に物差しをもっていて、自分で幸せを見いだせる人でありたいと思いました。</p>	<p>・「感想」と「考えの形成」の違いを示す中で、「考えの形成」を行う必要性を「自分づくり」と「新しい時代を生き抜く力」の二つの観点から示し、主体的な学びの姿を生み出すようにする。 「新しい時代を生き抜く力」とは次の三つを指す。 (1)情報を編集・操作する力 (2)新しい情報を、すでに持っている知識や経験、感情に統合し構造化する力 (3)新しい問いや仮説を立てるなど、既に持っている考えの構造を転換する力 ・全体交流の場面では、意図的指名により、モデルを示すようにする。モデルで示したい内容は次の三つである。 ①「故郷」の作品の中から読み取れることを根拠に考えの形成を行う発言。 ②「故郷」の作品だけでなく、新たな情報を踏まえた上で考えの形成を行った発言。 ③仲間の発言を踏まえた上でさらに考えの形成を行った発言。 ・仲間の考えを聞いて、自分の考えを見直し、再構築するために、「広がった」「深まった」という視点を与える。 ◎「広がった」：自分にはなかつた視点を持つことができた場合 ◎「深まった」：他の視点も踏まえて、自分の考えをもつことができた場合 ・自分の考えを述べる場を全員に設定することで、多くの仲間のものの見方や考え方を知ることができるようになる。また、自分のものの見方や考え方について仲間から意見をもらうことで妥当性を確かめたり、視野を広げたりすることができるようにする。 ◎「仲間」の考えを踏まえた上で自分の考えを発言する」という条件を与えることよって、仲間の考えと自分の考えの共通点や相違点をはっきりさせた上で、自分の考えを再構築できるようにする。また、個別に話させる場面を設定することで、脳に汗をかかせる状態をつくり出す。 ・仲間の意見を踏まえた上で、自分のものの見方や考え方を広め、深めた生徒を価値付けることで、振り返りを書くときのポイントを示唆する。</p>
<p>終末</p>	<p>◆振り返りを書く 私は、幸せになるためには、国が豊かでないといけないと考えたのですが、そのためには安心ができる社会制度がないといけないと視野が広がりました。また、Eさんの発言を聞いて、幸せとは、自分の心が決めるものであると考えが深まりました。安心して暮らせる社会をつくり、足るを知る人間づくりを行うことが、現代を生きる私たちに必要だと思えます。</p>	<p>仲間」の考えを踏まえて人間、社会、自然などについて自分の考えを広げたり深めたりしている。(読むことエ)</p>